

早稲田大学 国際教養学部 古文 講評

〔総合分析〕

<p>試験時間</p> <p>国語 60 分（現代文 2 問 古文 1 問）</p> <p>出典</p> <p>『十訓抄（じっきんしょう）』 第四 人の上を誠むべき事 四ノ序</p> <p>解題</p> <p>鎌倉時代の説話集。建長四（1252）年成立。編者は湯浅宗業とする説と菅原為長とする説がある。</p>
--

〔大問別講評〕

大問番号	設問番号	コメント	難易度
三	問十	<p>〈脱文補入〉</p> <p>抜き出した一文を本文に戻す設問。昨年の本学部の出題形式を踏襲した。過去、早大の他の学部（政経・一文・二文など）でも同形式の出題がある。抜き出された文の「これら」の指示対象を把握しているかを問うことが出題意図。</p>	標準
	問十一	<p>〈空欄補入〉</p> <p>空欄に語を補い入れる設問。昨年の本学部の出題形式を踏襲。早大では、補う語の種類は多様であるが、すべての学部で出題されたことがある形式。空欄Ⅰ・Ⅱともに、文章全体の構造を巨視的に判断する読解力を養わないと思わぬ誤りをしかねない。</p>	標準
	問十二	<p>〈理由説明〉</p> <p>与えられた文章を設問の意図に従って構造的に把握する力が必要。ある程度のレベルに達していると認識が薄くなるが、本文のどこからどこまでが理由になるのかを精確に把握し、それを過不足なく記す選択肢を選ぶ。</p>	標準
	問十三	<p>〈傍線部訳〉</p> <p>「なーそ」の禁止表現に着目することで正答は得られる。きわめて平易。</p>	平易
	問十四	<p>〈内容一致〉</p> <p>内容に合致しないものを選ぶ設問。それぞれの選択肢を本文に対応させなくとも選択は容易。</p>	平易

〔総合コメント〕

難易度

平易（やや易化）。本文の内容・出題形式・設問すべて平易。満点を目標としたい。昨年よりも解きやすい設問であった。

分量

やや減少。新設された昨年の『徒然草』の約 600 字弱に比べ、本年は約 400 字とさらに短い本文となった。また早稲田大学の他学部に対しても極めて短い本文である。設問数は前年と同じ。

出典

出典として馴染みのある『十訓抄』ではあるが、引用された部分は編の頭に掲げられた編の主旨であって、頻出する文とは言えまい。本学部は、昨年同様、出典を示さなかった。しかし文章構成、話柄は平易であって、内容把握は容易であったろう。

形式

全問客観式。脱文補入・空欄補入・傍線部訳・内容一致など一般的な大学入試問題の典型的な形式。早稲田大学の他学部に見られる独特な形式をも含まない、極めて基本的な出題。